



応援メッセージを込めたDVD（写真上）を奥山恵美子仙台市長に手渡し、被害の状況や復旧に向けた動きをまとめた本を受け取った片岡市長（写真左）



さまざまなイベントで集まる義援金

総社の思いを震災孤児へ **全力で宮城っ子を応援**

東日本大震災から1年以上が経ちます。今でもさまざまな形で支援の輪は広がっています。

市では「そうじや・宮城っ子基金」を創設し、集まった義援金を宮城県の震災孤児のために使っています。これまで多くの人が同基金に賛同し、チャリティ活動などで義援金を集め、寄付してくださっています。今後も、宮城県内の震災孤児を全力で応援し続けます。

「**そうじや・宮城っ子基金**」は、市に寄せられた東日本大震災の復興に向けた義援金を原資とした基金で、震災で両親を亡くした宮城県内の中学生以下の震災孤児に対し、1人年間10万円を5年続けて支給します。これまでに、宮城県内の6市5町の79人に支給しています。市内では同基金に賛同し、コンサート

などさまざまなチャリティ活動を行う人が今でも増え続けています。

これからの宮城県の震災孤児を支援し続けていくため、片岡市長は奥山恵美子仙台市長を訪問。これまでの復興に向けた活動や総社市が行ってきた支援について奥山仙台市長と話し、今後も「そうじや・宮城っ子基金」をはじめ、できる限

りの支援を続けていくことを確認しました。

「そうじや・宮城っ子基金」に対するお礼のビデオレターが奥山仙台市長から届いたことを受け、市で作成した応援ビデオレターも届きました。市長からビデオレ

ターを受け取った奥山仙台市長は「市長会を通して、宮城県の子どもたちに見てもらいます」と話しました。また、奥山仙台市長は被害の状況や復旧に向けた動きを1冊にまとめた本を市長に渡し、今後の復興につい

て話しました。東日本大震災からの復興には息の長い支援が必要です。市は、今後も「そうじや・宮城っ子基金」だけでなく、できる限りの支援をしていきます。

広がる支援の輪

総社のまつりから元気を

4月29日、吉備路れんげまつりでチャリティー抽選会を実施。景品は、会場に出店している30店から提供された40種約650個の商品や食べ物。義援金となる300円で1回抽選でき、主旨に賛同した人が次々とくじを引いていました。



くじを引く子ども

公民館を巡り、支援の輪を広げる

市内を中心に音楽活動をしているバンドなどが4月21日、チャリティーコンサートin公民館を手山公民館で開催。熱い歌声で出演した5組と観衆の心は一つになりました。今後、市内の全公民館を巡り支援の輪を広げます。



「上を向いて歩こう」を合唱

中・高生の思いを音楽に乗せ

市内の全中学校・高校の吹奏楽部や合唱部によるコンサート「音楽の“ちから”」が4月28日、市民会館で開かれました。参加した約100人の中・高生の思いやエネルギーを、音楽という形で被災地の人へ送りました。



「心の中にきらめいて」を合唱